

会員店舗の商品開発等を支援する豊中市小売商業団体連合会、平成27年度(2015年度)から調理・製菓コースを開設して実践的な教育に取り組む梅花高等学校、そして就航都市の周辺自治体に協力して地域活性化を支援するJALグループの株式会社ジェイエア。この三者が連携して、豊中オリジナルの洋菓子を新たに開発した「Toyonaka Sky Sweetsプロジェクト」をご紹介します。



異色のコラボによる スイーツ開発プロジェクト

Toyonaka Sky Sweets

女性8人のプロジェクトチーム

平成27年9月に発足したプロジェクトは、豊中市小売商業団体連合会会員店舗「お茶処吉田」のパティシエ辻村聖さん、梅花高等学校の生徒4人、株式会社ジェイエアの客室乗務員3人の女性8人がメインとなって進められました。商品コンセプトから、味、形状、色合いにいたるまで、「豊中」「空港」をキーワードにアイデアを出し合い、試作品づくりを繰り返しました。同年11月に開催された「とよなか産業フェア」では、試作品を展示して、来場者の声を数多く聞くなど、より完成度の高い商品をめざしました。

豊中産イチゴを使う

商品化にあたってメンバーがこだわったのが、豊中産の食材を使うこと。各方面から情報を集めた結果、今も市内で栽培されているイチゴを使うことにしました。そこで、原田南でイチゴを栽培している西本健一さんの協力を得て、平成28年5月にメンバー自らイチゴを収穫し、ドライストロベリーとジャムに加工して、生菓子と焼き菓子の両方に使えるように準備しました。

商品のコンセプト「へりから、イチゴ」の加工作業まで、いろんなことを知り、自分がつくるタイミングにも、人に食べてもらうことをつねに考えてつくるようになりました。

(梅花高等学校 プロジェクトメンバー)



それぞれが置かれている立場や環境によって考え方も様々で、日々新鮮なコミュニケーションをとることでできたのは貴重な経験でした。

(株式会社ジェイエア客室乗務員 金澤ゆかりさん)



このプロジェクトは、大阪国際空港を拠点にJALグループの地方ネットワークの主翼を担当社が、地域に密着し応援する企画として、まさに実現したかった取り組みです。

(株式会社ジェイエア業務部 實取恭平さん)



食のプロをめざす生徒たちにとって、商品として売り出すプロセスを一から体験できたことは得難い機会です。

(梅花高等学校教頭 田部雅昭さん)



メンバーの思いが形に

商品パッケージや商品説明書もメンバーでアイデアを出し合いました。梅花高等学校の奥美奈子さんが描いたイチゴの絵を使った商品説明書には、メンバーの紹介や商品ができるまでのストーリーがつけられています。

メンバーの思いがこもったスイーツ「Strawberry Much」は、10月15日の市制施行80周年記念式典で初お目見え。「お茶処吉田」での販売やJR大阪駅前のルックアでも催事販売がはじまるなど、一年間にわたるプロジェクトが形になって、次なるステップに向けて羽ばたきます。



「Berry much Cookie」
豊中産イチゴジャムをサンド。
梅花高等学校と株式会社ジェイエアのイメージを形に



Strawberry Much

「Berry much Pound」
縦方向にカットすると豊中産イチゴフレーバーのワニが現れます



「豊中産イチゴ」
かつて豊中市では、勝部、原田、桜井、谷などイチゴが生産され、原田地区にはイチゴジャム製造工場もありました。甘みが強く味が柔らかい品種「宝交早生(ほうこうわせ)」が現在も数軒の農家で栽培されています。

商品説明書にスイーツの特徴をつづっています